

【日建リース工業と東宏】「ダーウィン台車」を開発

日建リース工業（本社・千代田区、関山正勝社長）は東宏（本社・札幌市、小林雅彦社長）をグループ化し、その初弾となる仮設足場材を利用したトンネル工事向け台車「ダーウィン台車」を開発した。小林社長は「2年後にはシェア50%を目指す」と意気込みを語った。

グループ化は、日建リース工業が5年前から進めてきたトンネル工事向けベルコンと東宏のトンネル工事における技術開発力の相乗効果を期待してのもの。合併の9月以降、現場向けの仮設資材の開発が行われてきた。



「ダーウィン台車」の使用イメージ

トンネル工事における従来のシート台車は、現場ごとのオーダーメイドで納期がかかり、費用負担も大きかった。これに対しダーウィン台車は▽基礎部材、仮設足場の転用率100%▽特殊部材の割合10%以下▽日建リース工業の全国拠点60カ所あるため短納期供給が可能▽安価での供給が可能—の特長を持つ。

新規トンネル工事は年間100本ほどの発注があり、全国で200本以上の現場が稼働していることから、両社では2020年度は30現場を目途に、翌21年度には100現場以上での普及を目指す。また仮設材を利用したベルコン受け材の拡販、特殊型枠の開発も進める計画だ。

問い合わせは、日建リース工業トンネル営業推進部・佐々木氏（TEL03-3295-9111）または東宏開発部・佐藤氏（TEL03-6659-3841）まで。